

ので、屢々其の廢止説も出たのであるが、博士は其の必要を説かれて頑として引かれなかつた。技術者のうちにさへ其の要不要を考へる人も無かつたとも云へない。然し博士は絶對に日本土木技術の向上のために此の存續の如何に必要なるかを確信して居られた。直轄工事の地方移管説が起つて代表的全日本の土木技術者が一堂に集まつた事があつたが、其の節博士が土木試験所の必要を述べられた演説は實際熱其のものだつた。其の熱意と其の確信とは私の今迄

技術の神聖を述ぶる言葉では聞かた事が無かつた。舌端火を噴くと云ふのは之れかと思つた事だつた。

今日の土木試験所は其の基礎も確立せられ内容も充實して來た。將來の事は私は云ふ事は出来ないけれども、今日以上の光輝ある成績を擧げる事は出来るかどうかと思ふ。道路方面にしても西川技師、藤井博士、山田技師等につて見事な研究が完成しつゝある。私は今日の隆盛に祝意を表し、並ならぬ御努力に敬意を表すものである。

東海道視察旅行案内記 (一)

はしがき

此案内記は東海道視察旅行延期せられたので同旅行施行の際には別に作成するから参考にもと本誌にかゝることとした。

(H 生)

大昔の業平朝臣の東下りはともかく徳川將軍の上落、西國諸藩主參勤の道筋である東海道は五十三次の宿驛があつて世に囃し立てられた街道である。然るに東海道鐵道の敷設に依つて漸く其價値を減じ地方色を帯び來つて殆んど荒

廢に歸するにあらずやと疑はれたものだが文化の發暢は道路の重要性を喚起し殊に自動車の發達は一段道路の改良を促進することとなつた。本會茲に觀る所があつて夙に東海道の改良を強調したのである。政府及地方廳に於ては十數年來力を致す所があつて該街道の難所は改修を行ひ橋梁は架設し路面は鋪裝を施して今や交通の利便、産業の開發等に資する所大なるを視るに至つた。夫れで本會主催して東海道視察旅行を企て改良の實情を視察し更らに其の進歩を計り未改良部分に對しては改良の方法を研究し併せて自動車運轉の能力關係をも實驗することとなつた、仍て節約なる旅行案内書を作り以て此旅行に便せんとする。

東京日本橋から

○日本橋 本橋は日本橋區通一丁目と室町一丁目の間に架せられたもので慶長七年創めて架せられたが、現在の橋梁は明治四十四年四月竣工した、構造は花崗岩切石を用ゐる歐洲型石拱二徑間より成る古典的な意匠を以て構裝し頗

る壯麗である橋面の中央板は道路元標となつておる。

○京濱國道

一號國道も二號國道も起點を日本橋に置き東京横濱間を連絡する、此國道の改良は日本橋より芝口一丁目に至る區間は明治五年二月京橋區銀座築地方面の大火に依り銀座通を幅員十五間に擴張したので現在其儘であるが芝口一丁目から品川區高輪南町八ツ山橋際に至る五、四六〇米餘の區間は幅員三三米乃至三六米に大正十二年の大震災災後復興局で改築した。

東京市品川區八ツ山橋より横濱市子安町に至る區間一七料餘は總工費一一、七三七、〇〇〇圓餘で其半額は國庫より補助を受け殘額は東京府及神奈川縣に於て各其管區内の分を分擔して東京府管内約一〇料は幅員を二十二米其他は幅員を十八米とし歩車道を區別す、而して鋪裝はアスファルトコンクリートである。

○高輪大木戸址

寶永七年芝區車町に木戸を設けて江戸への出入を警備せし遺跡である。此の木戸は東海道に依る江戸の入口であるから其規模大にして、往來の者は此處

で旅装を改め送迎者も亦此所を限とした、享和年間伊能忠

敬が全國を測量するに當て此處を基點としたるは著名の事である、此の木戸は明治維新の際撤廢せられ道路の兩側に殘存した石疊も今は唯東側のみ残つて居る、曩日史蹟として指定せられたものである。

○高輪泉岳寺 江戸の曹洞宗三大寺院の一名刹であつて赤穂義士四十七士の墓所を以て全國に知られて居る。

品川から

○品川町 品川宿と稱し東海道五十三驛の第一の宿驛で江戸南方の門戸であつたから行旅往來最も繁く南品川宿北品川宿、歩行品川宿の三區に分れて居つた、今は東京市に編入せられて品川區品川町と稱せらるゝ。

○京濱電車交叉箇所 京濱國道は品川區大井鈴ヶ森地内で京濱電氣鐵道株式會社軌道に依つて十五度の角度で横斷せられて居るが、交通保安上水平交叉を避け軌道を高架式とした此斜架橋の徑間は百二十尺で橋脚の位置其の工作

等に困難を極めたものである。

○池上本門寺 東京市大森區池上町(元荏原郡池上村)に在る、日蓮宗の一本山で宗祖日蓮入滅の遺跡である。故星亨氏の墓地がある。寺は紫衣勅許の寺格を有す「池上にさくや南無妙法蓮華」

○鈴ヶ森刑場跡 品川區大井鈴ヶ森町に在る、徳川幕府の初め高輪如來寺前の刑場を此處に移したもので、此刑場で處刑せられたもの有名なのは丸橋忠彌、天一坊、山縣大貳等である、遺跡には小堂及題目供養碑がある。

○梅屋敷 蒲田區蒲田町に在る、屋敷中に梅を植栽し梅木堂と稱し梅の名所として知られ、明治年間 明治天皇の行幸あらせられたること五回 昭憲皇太后も亦行啓せられ貴顯紳士文人墨客の來遊した所で、今は昔時の如くならさるも玉座に充てられた建造物も保有せられ一の史蹟地となつて居る。

○六郷橋 京濱國道中東京府と神奈川縣を境する多摩川に架する橋梁で延長四四六米有効幅員一六米で橋梁の主

體は全部鐵橋造とし六七米タイドアーチ型構二連と一八米プレートガーダー一七連より成る工費は五一〇、〇〇〇圓である。

川崎から

川崎市 神奈川縣に屬し多摩川に架する六郷橋を渡つた地で、五十三次の一として神奈川、品川二宿の間に在る、寛永四年宿驛となつたものである。太田道灌の歌に「朝ぼらけ霞うながす川岸に波と見るまに立てる白鷺」とある、今は京濱間の工場都市と稱せられて居る。

○川崎大師 川崎の東方大師河原に在る名刹で、大治二年平間兼乘靈夢を感じ弘法大師の尊像を海中に得、小堂を構へて供養怠らず次で尊賢上人に依つて堂宇を建立せられ平間寺と稱し、はやり佛の一となつたのである。

○總持寺 横濱市鶴見の丘陵上に在る曹洞宗の總本山で明治四十年能登から移轉し莊嚴な佛堂を建造した。

○生麥事件記念碑

鶴見と子安との間、生麥の地に於

て文久二年八月二十八日、勅使下向の際其前驅を乗馬の儘犯した英人があつて護衛の薩摩藩士怒つて之を斬つた事件があつた後、其位置に建立した記念碑である。

神奈川から

○神奈川町 横濱市の一部であるが、昔時は神奈川湊と稱せられ横濱の北一里の海邊斷崖上に位置した處で五十三次の一で、大田道灌倉道の分岐地點である。安政年間に外國貿易市の一港と定められた。小窓明くれば神奈川港出船入船大繁昌船八百艘帆柱八百本云々の甚句もある通り中々殷賑を極めた所であつた。

○神奈川舊國道 元東海道は神奈川より北に折れ、西南に向つて高臺に沿ひ淺間を経て保土谷に出たものであつたが、大正十五年都市計畫道路の完成と同時に現在路線に變更せられた。

程土谷から

○程土谷町 保戸ヶ谷とも云ふ、今は横濱市に屬するも元程ヶ谷宿と稱して神奈川と戸塚との中間に在る五十三次の一驛であつた戸塚へ二里九丁、某書に「我は指さねど長刀、戸塚さやぐち伊達にしてさす程かいの町に着く」とあるを見る。

戸塚から

○戸塚町 鎌倉郡内の一區で、程土谷と藤澤との間に在る五十三次の一驛であつた藤澤へ二里。

○戸塚藤澤間複線道路 昭和七、八年に涉り時局匡救内務省直轄事業として此區間の國道を改良することとなつたが、著名な松並木を保存する爲め道路の中央に之を殘して複線式とし、左右各有効幅員六米セメント混凝土を以て鋪裝す。

藤澤から

○藤澤町 高坐郡に屬し、戸塚と平塚との間に在る東海道宿驛の一名驛であつた。

○遊行寺 藤澤大富町に在る時宗（遊行宗）の總本山

で藤澤道場と稱せらる、呑海の開山に係る名刹である、小栗判官満重遊女照姫とのローマンス因縁のある寺である。

○今宿杭 今宿とは中世の懷島宿の遺號であつて、相模川馬入渡の東岸に在る地である、此處に源頼朝の臣稻元重成の架橋せし橋脚があつて大正十二年の關東大地震の際地中より現はれ出た、之を今宿杭と名けて保存す。

○馬入橋 相模川に架する橋梁で、大正十二年工事に震災を蒙り破壊したので、震災復舊工事として更に着工し大正十五年竣功を告げた、一六米三七二徑間及二一米八〇、二七徑間有効幅員七米三〇である。

平塚から

○平塚市 中郡に屬す、相模川の沿岸に在り藤澤と大磯との間に在る宿驛であつた。藤澤へ三里半大磯へ二十七丁。

大磯から

○大磯町

平塚と小田原との間に在り中郡に屬する東海道之古驛で、今小磯高麗寺村を併合して一町となつて居る小田原へ四里、伊藤公が、松仙閣、蒼浪閣等を築造し、其他名士の別墅多く海水浴場としても著名である。

○湘南道路

片瀬から大磯へ海岸線に沿ひ延長一七、

〇〇〇米幅員一二米の「ドライヴウエー」で沿道別荘地帯の設備として恰當を得て居る總工費百七十萬圓で昭和六年九月起工し目下工事中で同十一年三月竣功の見込である。

○鷗立庵

大磯小磯の間街道の傍に小溪がある之を鷗立澤と稱す、西行法師一庵を結び鷗立庵と號し「心なき身にも哀れは知られけり鷗立驛の秋の夕暮」との歌を詠したので其遺跡として有名である。

小田原から

〔東京から八五キロ
京都から四四七キロ〕

○小田原町

箱根の入口に在る名驛であつた足柄下郡に屬す、小原鐵心の詩に「關山聳我背、大洋當我前、此險不可恃英雄名空傳、暮雨跨馬過、一點鬼火寒」とあるの地

である、箱根へ約四里、二宮尊徳を祭れる二宮神社がある、外郎薬は靈藥として著名な産物である。

○小田原城址

北條氏の故墟で四十米の丘上に在る、其石疊濠池等は猶存する、今は町の公園として施設する。

○小田原湯本閘國道

延長五、五〇〇米の内中間三、一五五米は内務省失業救済事業として施工し其前後及橋梁は神奈川縣に於て改築す幅員一米・メント混凝土を以て鋪裝す、工費總額八十九萬千圓。

○函嶺洞門

塔ノ澤に在るトンネルで、大正十二年關東震災後土砂崩壞甚しく交通極めて危険を告げたるを以て工費約十一萬圓を以て開腹墜道を設け交通の安全を計る。

○曾我城前寺

曾我山の麓下曾我村に城前寺がある、其客殿には曾我十郎五郎と遊女虎の木像を安置す、宇佐美禪師富士野より兄弟の白骨を持ち歸り尾河三郎頼朝の命を受けて其首を此所に埋葬せりと傳ふ又其墓所は二子山麓に在る。

○箱根國道改修

湯本村から箱根町靜岡縣界に至る延

長八、六七九間幅員平均三間半工費金八十八萬圓(内國庫補助金七十四萬八千圓)で大正十二年九月の關東大震災の大破損復舊工事を企て同十三年八月起工し同十四年七月竣工した、夫れで「箱根の山は天下の嶮、幽谷關ものならず……」との函嶺の險路も樂々と馬でなく自動車で越すことを得るに至つた。

○石橋山古戰場

箱根湯本村の南方にある溪畔の山、源頼朝兵を擧げたるの地で建久元年正月頼朝老相樹の下與一塚を視、懷古の情落涙數行。僧義堂弔古の詩に「石橋夜戰事茫茫、余一豐三墓木荒、臥湖古杉苔半合、誰知霸主此中藏」とあるを見る。

○舊東海道石疊

元東海道は湯本村から西口山の尾を登り二子山の北西を繞り箱根權現に至る所謂湯坂を驛路とした、元昭三年官道として開鑿改築せられ、續いて文久三年徳川將軍家茂上落に際して石疊に改修せられた其の現形は尙之を存す。

箱根から

○箱根町

箱根の山頂芦湖の東南岸に位し、豆州三島宿より水飲を経て峠に達し稍下りて驛に達す、三島へ三里二十八丁、小田原へも同里程である。東海道中の山驛で參議爲相の歌に「一夜ともをばかへずあまたたびたちより見る葦川の波」とある。

○箱根神社

權現堂又は權現社とも云ふ、元箱根村に在る、國幣小社で祭神は瓊々杵尊、彥火出見尊、花咲哉姫の三神で天平寶字元年に創建せられたものである。

○箱根關址

元和三、四年の頃開設し徳川幕府の基礎確立と共に其取締嚴重を極め小田原藩の警衛する所であつた、明治維新の際之を廢止せられ今は唯遺跡を止むるのみである。

○考古館

箱根本陣十六代の石田氏之を建設し箱根關所に關する古文書什器等を多く藏するを以て有名である。

○十二丁の眺望

舊街道を通り峠に至る距離十二丁な

るから此處を十二丁と稱す、芦の湖三島沼津の市街、駿河灣を一望に收めて眺望佳絶の所である。

○熱海峠箱根峠間自動車道

神奈川縣境を距ること若

干の地點静岡縣駿東郡富士岡村長尾峠から田方郡函南村熱海峠に至る間自動車道が設けられて居る、起業者は駿豆鐵道株式會社で延長二・五料一・二〇幅員六米最急勾配二十分ノ一で工費金四拾萬圓(乗合自動車興業費共)を投じ起工し熱海峠から箱根峠までの一〇料二・二は竣工開業して居る。

○遞信省箱根無線電信局

本邦に於ての遞信省管轄航

空無線電信局は九ヶ所に在る其一である、一般事務は主として定期航空に對する氣象通報を取扱つて居る、位地は田方郡三島町字施行平(飛地)に在る、工事費金拾貳萬四千餘圓を投じ鐵骨は自立式高サ六〇米のもの二基三米のもの一基で裝置方式は遞信省真空管式である、昭和三年十一月起工し翌四年五月二十日竣工し翌日事務を開始した。

○箱根坂路國道改築

縣界から延長一六、〇二九米に

互り幅員五米五乃至八米二最急勾配十五分ノ一で工事費金

參拾八萬二千九百餘圓を投じ静岡縣で施工した、其竣工は大正十二年九月である。

三島から

〔東京から一二・五、五キロ、京都から四〇・六、五キロ〕

○三島町

伊豆國田方郡に在つて沼津へ一里半、昔時は伊豆國府の地、箱根山下の一宿驛であつた、伊豆方面交通の要路に當る。

○三島神社

明治四年五月官幣大社に列せられる、祭

神は大國主命の御子積羽八重事代主命、往古から朝廷の尊信高く殊に源賴朝以來武將の尊崇厚きを加へた、「せきかけし苗代水の流れ來て又天降る神を此神」

○三島地内國道改築

延長七・九米一幅員一四米五膠

石鋪裝を工事費金拾參萬九千餘圓で静岡縣に於て施工し昭和七年十二月竣工した。

沼津から

〔東京から一三・一、五キロ、京都から四〇・〇、五キロ〕

○沼津市

三島と原との間に至る駿東郡内五十三次の

一驛であつたが、交通の要路に當り駿河灣の一方に位す、沼津港は狩野川々口に在りて駿河灣の灣底を占む、牛臥山靜浦があつて宮内省御用邸がある。

○千本松原 沼津市狩野川々口から富士郡田子浦村富士川尻に及ぶ一帯の地で、五里に亘る松樹は亭々相倚り一陣の内にあり、小波寄する渚に立て仰ぎ見ると翠松の間愛鷹山、富士山等の全貌を望み得る、子守歌に「坊や善い子ぢや寝んねしな、此兒の可愛さ限りない、山には木の數、草の數、ぬますに居れば千本松、千本松原小松原、まつこの景色見ては休にやならの坂、いざたばこにや千本の松」と歌はして居る。

○車窓の富士 沼津を中心とし東は三島、西は興津の間を自動車でドライブすると北の窓からは富士の靈峰を思ふまゝに我が物と爲すこと得るか沼津三島間は愛鷹山との關係や寶永山との關係で富嶽の容姿所によりて變化する、沼津の西、原より仰げば富岳に直面して其山姿頗る秀靈を

極む夫より原、興津間は南窓に駿河灣の眺望を恣にし、北窓に所謂左富士を仰ぎ見るを得て旅情の爽快言はん方なしと稱せらる。

原から

○原町 沼津から一里餘の處で駿東郡内に在る、東海道の一驛であつた、昔時浮島ヶ原の宿とも稱せられ、此沿海の沙丘と、足高の裾野との間一帯の地が浮島ヶ原であつた、紙の原料三椏は天明の頃原の住民渡邊某の發見に係り近隣農民に勸めて培養せしめしに數年ならずして大に繁殖し、之に依つて製造したのが駿河半紙として其名聲を博するに至つた。又此地の附近加島村の如き有名な富士梨の產地として世に知れて居る。

吉原から

○吉原町 富士郡の首邑で原と蒲原との間鈴川の西に位し、天和二年後五十三次の一驛となつた地である。

○富士川橋 型式はブラウトラス鋼橋で延長三九八

米有效幅員七、二七米鋪裝日本松木塊、取合道路は延長三

九三、六米有效幅員八米乃至一一、七米で工費金七拾八萬

五百餘圓を投し静岡縣で架設したもので大正十一年四月起

工し同十三年四月竣工した。縣下五大橋の一である。

○富士川町蒲原町間國道改築 富士川町大字岩淵から

蒲原町大字蒲原に至る間延長三、五五五米二有效幅員七米

五乃至九米路面砂利敷で工事費金參拾萬圓を以て内務省直

轄工事として施工したものである。

蒲原から

○蒲原町 庵原郡の一邑で吉原から約三里由比から一

里を隔たつた東海道の一驛であつた、東關紀行に在る歌に

「旅衣すそのの庵のさむしろにつもるもしるし富士の白雪」

とあるは此地での事である。

七難坂と云ふ難坂がある其南が吹上濱と呼ぶ田子浦であ

る、彼の赤人の歌に「田兒の浦に打出て見れば眞白にそ不

士の高嶺に雪は降りつゝ」とあるは此處である。

○原町地内國道改築 延長二、一四〇米有效幅員七

米五乃至九米、路面構造砂利敷工事費金貳拾貳萬圓で内務

省直轄工事として施工中に屬す。

由比から

○由比町 庵原郡内薩埵山の東なる海岸に在る、昔の

一宿驛で由井又は湯居とも稱せられた近世紙を以て名産とす。

○町内國道改築 延長二、一三五米有效幅員七米五路

面構造セメント混凝土鋪裝防波護岸二、一〇三米で工事費

金參拾參萬圓を以て昭和七年度事業としての内務省直轄工

事である、但内跨線橋一ヶ所並其取付道路を合せ延長四〇

米は静岡縣で施工した。

○薩埵峠 古名を磐城山と稱す、興津川が其西を繞つ

て海洋の水其東南を洗ひ北は安原峠の峰巒に連る山勢由比

興津の間に横出し東海道の大險阻である、舊街道は切通し

坂、夫婦坂、葛籠坂、牛房坂等の山嶺を経たるも現國道は海岸に變更せられて居る。

興津から

○興津町 庵原郡内に在り興津川の西方尻尻より東一里許の地である、興津の浦を過ぐれば鹽釜の煙かすかに浦人の袖打しほれ宅邊には小魚を晒して屋上に鱗を葺けり云々とある古文がある浦廻であつたが五十三次の一驛となつた。

興津川橋は鐵筋コンクリートゲルバー桁を用ゐ「グラノリシツク」混凝土を以て鋪裝し靜岡縣で施工した工費金十六萬餘圓を貸やした橋梁である。

○清見寺 興津町の西に在り臨濟宗妙心寺派に屬する名刹である、開基は詳ならざるも白鳳年間清見の關を設けたる時創立せられしものか後足利尊氏清見興國禪寺の寺號を興へたる等史實に富める寺院で雪齋長老が造庭したりと傳へられてゐる名園があつて明治天皇再度御休憩ならせら

れたる史蹟である。

○興津町袖師村簡國道改築 延長四九米六幅員七米二の道路と波多打川橋と跨線橋の二橋梁とを工費金拾萬千四百餘圓を以て靜岡縣に於て施工し昭和八年五月三十一日竣工を告げた。

江尻から

○江尻町 庵原郡内巴川の河口に在る古驛である、入江町と合併今は清水市に屬す、古昔は一の曲浦で古文書に江尻の浦を過ぐれば青苔石に生ひ、黒布磯にはふ、南は海森々と浪をおこして孤帆天に飛び云々とあり又近き濱邊に出づれば清見瀉富士を見る目は又類なき所にてかなたの三保の松原をも見渡すとある。

○三保の松原 清水市三保より駒越に至る間に在る、古著名の勝地で羽衣の松は人口に膾炙する所で駿河灣頭一佳景の地である。

○萱薙 阿倍郡有度村の一部落で久能山の北麓に在る

地で焼津と共に日本武尊叢雲を抽つて野火を拒きたる古跡地である、延喜式草薙神社がある。

○久能山 有度山とも稱し静岡の東、清水の南、海岸に沿ふて隆起せる一連岡で久能東照宮あり、不時の蔬菜栽培、莓の栽培地もあるが夫は久能莓と稱して有名である、山麓村松には鐵舟寺、龍華寺の二寺がある、龍華寺には高山樗牛氏の墳墓がある。

○清水築港 三保真崎より正北に畫せる一線を港界として總面積一〇〇〇萬平方米水深七米以上の面積四〇〇萬平方米で第一期工事費金四十六萬五千餘圓、第二期工事費

金八百四十四萬千餘圓陸上設備費金二百萬圓を以て静岡縣に於て施工した、巴川北方の岸壁には三千噸級の船舶五隻を繋留し得る、一ヶ年一、二四五、九〇五噸の輸入出貨物を吞吐するも故あるかなである。三二、一九噸價格七百三十八萬餘圓の綠茶は實に此清水港から輸出せらるゝ。

○清水市静岡市間國道改築 延長一一、〇九〇米、幅員二一米八路面鋪裝アスファルトコンクリート又は膠石鋪裝で工事費金貳百拾壹萬千餘圓を以て静岡縣に於て施工中等である。

田中好君を送る

佐藤利恭

内務省の名物男田中好君が永年の官吏生活を捨て、時雨

つゞきの九月中旬新興會社東京高遠鐵道に入つた、世は將